

# データ白書の見方と定量データ活用ポイント

IPA 独立行政法人 情報処理推進機構  
SEC ソフトウェア・エンジニアリング・センター

## 本書の利用について

SECでは2004年度よりプロジェクトデータを収集しており、その分析結果を「ソフトウェア開発データ白書」として発行し、そのデータを利用してSECのWebサイト上で稼動する「プロジェクト診断支援ツール」を公開しています。

各企業におきましては、企業内にて蓄積された定量データを含め、様々な活用を推進されていると思います。

しかし、いまだ活用状況が不十分な状況や、更に活用度合いを向上したいという課題に対し、ソフトウェア開発の様々な場面で、どのように定量データを活用するのか、定量データの見方や活用方法、幾つかの事例を交えたポイントを本書にまとめました。

各企業における定量データの活用に、少しでも貢献できれば幸いです。

- 1. 背景と目的**
2. 構成と利用イメージ
3. 利用の際の留意点
4. 使用条件

# 1. 背景と目的

## ■ 本書発行の背景

SECでは、定量データ活用の促進、普及・展開のために、各種イベントの参加やセミナーなど開催しています。セミナーのアンケートを見ると、定量データの活用は不十分な状況であり(企業内での定量データ活用は約53%)、また、「自社での定量データ活用の普及・展開に、SECセミナーでのテキストや講話内容などを流用したい。」といったご要望もございました。

そこでこの度、SECセミナーで利用しているテキストや「ソフトウェア開発データ白書」の見方、使い方のコンテンツを、利用者によるカスタマイズが可能な形態で公開いたします。

定量データの活用ポイントのご理解と共に、企業内の現場への普及・展開に活用していただければ幸いです。

# 1. 背景と目的

## ■ 本書の目的

「ソフトウェア開発データ白書」には多くの図表など掲載されていますが、“白書”の側面からそのデータをどう解釈し、利用するのか、詳細な説明まで明記していません。

また、複数企業からデータを収集していることから、データのばらつきがあることも事実で、企業内で収集した全社データの状況に似ているかもしれません。そのため現場の定量データに対する期待感とのギャップも生じ、活用度合いが向上しない要因とも考えられます。

そこで本書では、以下を目的にいくつかの構成に分けて本書を提供します。

- データ白書を用いて、定量データの見方を理解する。
- 定量データの利用者の視点と局面に立ち、具体的なアクションの事例を捉えることで、定量データの活用ポイントを掴む。

1. 背景と目的
- 2. 構成と利用イメージ**
3. 利用の際の留意点
4. 使用条件

### ■ 本書の構成

以下の構成に分けています。

#### 1. 「データ白書の見方・使い方」

データ白書の見方の説明を主に、定量データの基本的な使い方を説明。

#### 2. 「定量データの活用ポイントと事例」

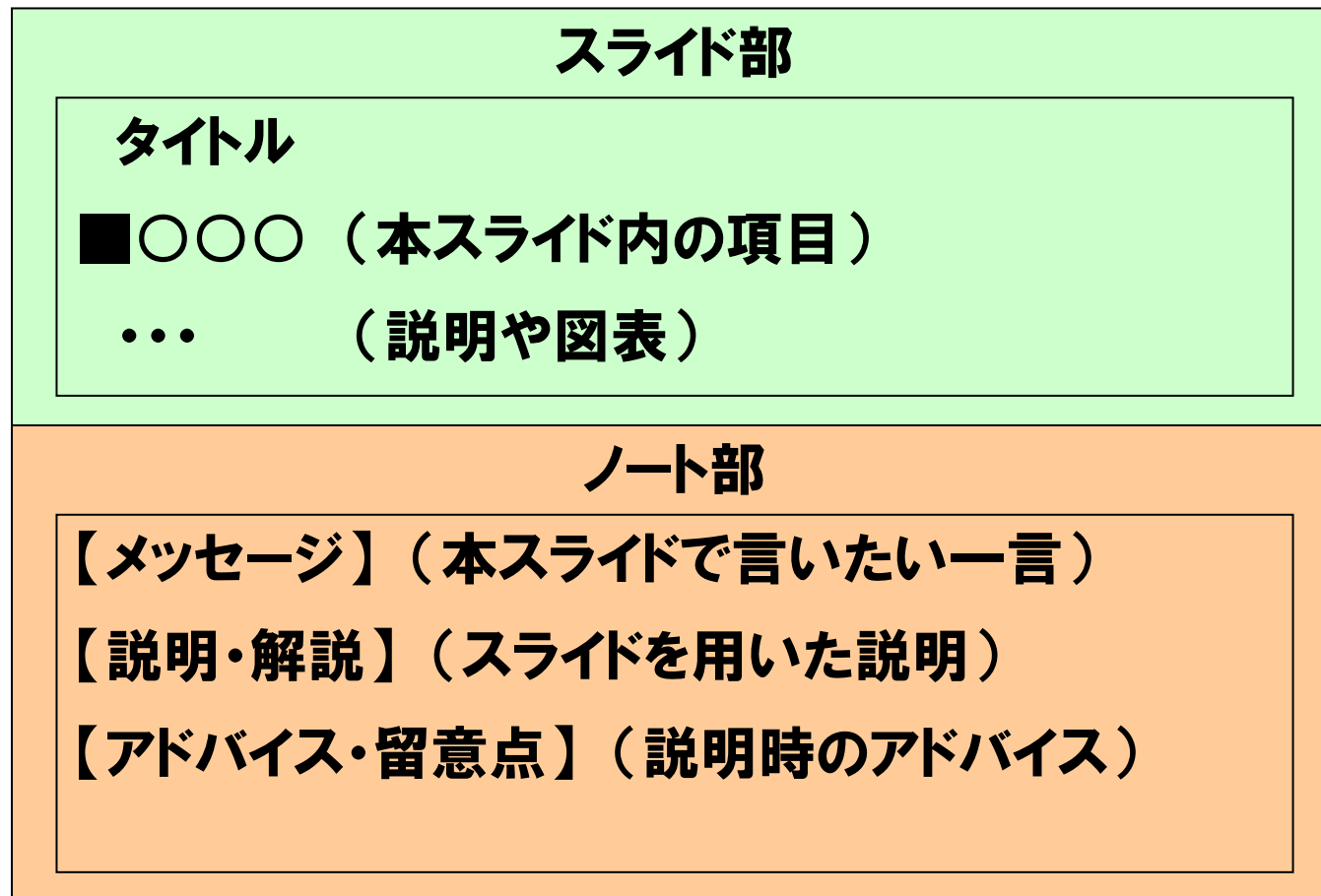
定量データの利用者の視点と局面に立った定量データの活用方法や事例を紹介。



## 2. 構成と利用イメージ

### ■ 各文書内の構成

以下のようにスライド部分とノート部分に分けています。



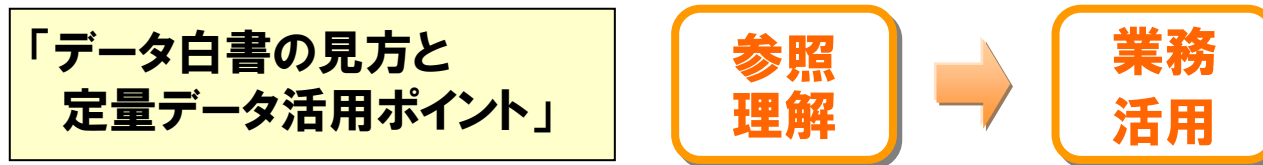
### ■ 本書の対象読者

- 教育部門の方々
  - 企業内での定量データ活用の普及・展開を、社内教育などにより推進される際、本書を活用いただきたい。
- 品質保証部門、プロジェクトマネジメントオフィスの方々
  - 企業内での定量データベース構築や、プロジェクトのベンチマーキングを推進する際、また、現場の方々への説明やご指導など対応される際、本書を活用いただきたい。
- 業務部門、情報システム部門の責任者の方々
  - ソフトウェア開発現場で、データ収集・定量的管理・精度向上等の取り組みの啓発の際に、本書を活用いただきたい。
- プロジェクトマネージャ、プロジェクトリーダーの方々
  - 定量データを利用した見積りやプロジェクト管理を行う際、実践的ノウハウとして、本書を活用いただきたい。

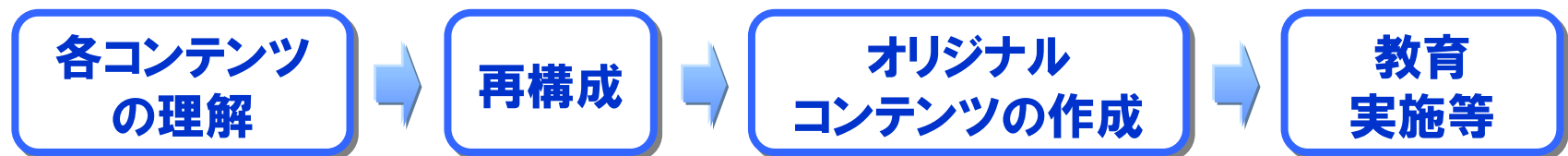
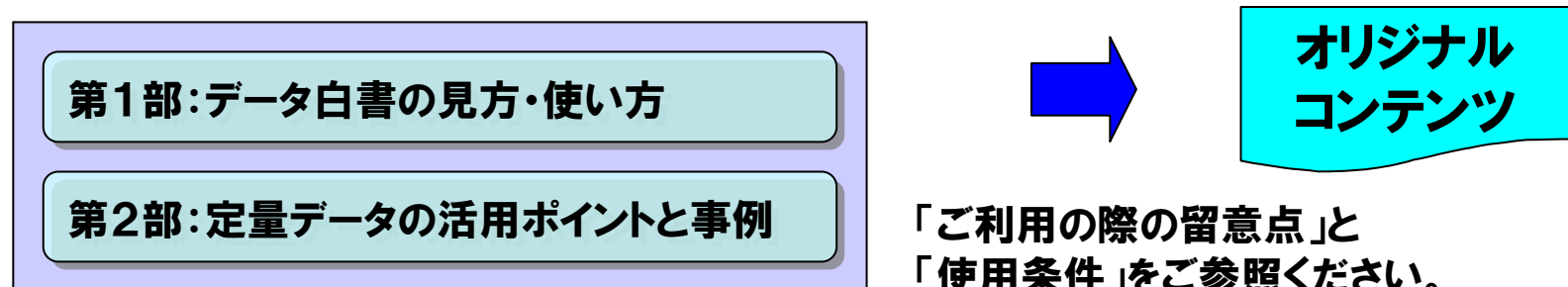
## 2. 構成と利用イメージ

### ■ 利用イメージ

- 本書を参照いただき、各種業務でご利用いただくケース。  
(読み物としての利用イメージ)



- 本書活用の中でも企業内の教育などにご利用いただくケース。  
(PowerPointファイルの部品、コンテンツとしての利用イメージ)



1. 背景と目的
2. 構成と利用イメージ
- 3. 利用の際の留意点**
4. 使用条件

## ■ 本書利用の際の留意点

- 本書で記述している内容および掲載している図表は「ソフトウェア開発データ白書」の「2010-2011版」を対象としています。  
用語や定義については、こちらを参照してください。
- 本書内で「データ白書」と表現している文言は、基本的に当該「ソフトウェア開発データ白書」を指します。
- 本書はPDF形式ファイル用とPowerPoint形式ファイル用の2種類ありますが、次ページにある使用条件の下でご利用ください。

1. 背景と目的
2. 構成と利用イメージ
3. 利用の際の留意点
- 4. 使用条件**

## 4. 使用条件(1)

### 1) PDF形式のドキュメント類

1. 本資料の著作権は、独立行政法人 情報処理推進機構が保有しています。
2. 本資料は著作権法による保護を受けており、本資料の利用者は、本資料の全部または一部を項番3に定める場合を除き、独立行政法人 情報処理推進機構の許諾なく無断で改変、公衆送信、販売、出版、翻訳/翻案することは営利目的、非営利目的に関わらず禁じられています。
3. 独立行政法人 情報処理推進機構は、本資料の利用者が、以下の著作権表示を明記することを条件として、(1)及び(2)の行為を行うことを許諾します。著作権表示:Copyright (c) 2011 IPA
  - (1)本資料の全部または一部を複製すること。
  - (2)本ページに記載されている使用条件を配布先に遵守させることを条件に本資料の複製物を無償で再配布すること。
4. 独立行政法人 情報処理推進機構は、本資料が第三者の著作権、特許権、実用新案権等の知的財産権に抵触しないことを一切保証するものではなく、また、本資料の内容に誤りがあった場合でも一切責任を負いかねます。
5. 独立行政法人 情報処理推進機構は、本ページで記載された許諾内容を除き、独立行政法人 情報処理推進機構または第三者の著作権、特許権、実用新案権等の知的財産権に基づきいかなる権利を許諾するものではありません。
6. 独立行政法人 情報処理推進機構は、本資料のシステム開発への利用、開発されたシステムの使用、及び当該システムの使用不能等により生じるいかなる損害についても、なんら責任を負うものではありません。
7. 本資料を海外へ持ち出す場合及び非居住者に提供する場合には、「外国為替及び外国貿易法」の規制及び米国輸出管理規則等外国の輸出関連法規を確認のうえ、必要な手続きを行って下さい。
8. 本資料へのお問い合わせについては、独立行政法人 情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センターまでご連絡下さい。

## 4. 使用条件(2)

### 2) PowerPoint形式のドキュメント類

1. 本資料の著作権は、独立行政法人 情報処理推進機構が保有しています。
2. 独立行政法人 情報処理推進機構は、「本資料の全部又は一部を複製、改変、公衆送信、又は翻訳/翻案し、第三者に有償又は無償で再配布すること」を許諾します。  
なお、複製し再配布する場合は本使用条件を添付し、本使用条件に記載されている条件を配布先に遵守させて下さい。  
改変又は翻訳/翻案し再配布する場合は、新しく使用条件を設定することが可能ですが、本使用条件を必ず含めて下さい。
3. 独立行政法人 情報処理推進機構は、本資料が第三者の著作権、特許権、実用新案権等の知的財産権に抵触しないことを一切保証するものではなく、また、本資料の内容に誤りがあった場合でも一切責任を負いかねます。
4. 独立行政法人 情報処理推進機構は、本ページで記載された許諾内容を除き、独立行政法人 情報処理推進機構又は第三者の著作権、特許権、実用新案権等の知的財産権に基づくいかなる権利を許諾するものではありません。
5. 独立行政法人 情報処理推進機構は、本資料のシステム開発への利用、開発されたシステムの使用、及び当該システムの使用不能等により生じるいかなる損害についても、なんら責任を負うものではありません。
6. 本資料を海外へ持ち出す場合及び非居住者に提供する場合には、「外国為替及び外国貿易法」の規制及び米国輸出管理規則等外国の輸出関連法規を確認のうえ、必要な手続きを行って下さい。
7. 本資料へのお問い合わせについては、独立行政法人 情報処理推進機構  
ソフトウェア・エンジニアリング・センターまでご連絡下さい。



## 謝辞

本書に記載された内容は、産学官連携で進めているタスクフォースの委員の方々や、すでに離任されたSEC研究員、その他関係者により蓄積されたノウハウを利用させていただきました。これまで定量データ活用の普及・展開に携われた関係各位のご協力に深く感謝の意を表します。